## 第1回ごみ減量部会 ワークショップでの意見(A 班・B 班まとめ)

## テーマ: 課題を解決するためには、誰が何を行うと良いのか

		誰が行うのか(実施主体)		
		市民(家庭や地域が)	企業・団体 (職場や活動先が)	行政 (市役所が)
		〇資源回収による雑がみの収集。お菓子の箱、メール便の箱は、	○消費者グループでは陽明中学校に生ごみ処理機を設置し、給食の	○古着のリサイクルを進める。
		リサイクルでティッシュやトイレットペーパーの芯になるの	野菜くずを一晩で発酵させ生成物に変えることができる。米ぬか、	○紙パックや発泡スチロールを市が分別して回収するルールにす
		で、福井市では推進している。	もみ殻、油粕などを入れて肥料を作ることができる。休日には「生	れば、家庭での分別意識が高まるのでは。
			ごみ減らし隊員」が野菜くずを陽明中まで持って行っている。	〇リサイクルや分別の取り組みを行うと、スタンプがもらえてポ
			○生ごみを堆肥へ処理できる事業所の誘致。または六呂師の堆肥セ	イントが貯まりお店で使える仕組みがあると良い。
			ンターにて生ごみを処理できるようにする。その堆肥を使った有機	○生ごみを堆肥に変えることを業務にする事業所が大野市にもあ
	①分別回収(リサイ クル)の推進		農産物は高く売れるので農家の所得向上につながる。	ると良い。福井市にはある。
			○ある福祉施設では、ペットボトル、スチール缶、段ボールを分別	〇紙ごみ分別の周知
			しなくても回収してくれる。施設の仕事として利用者が分別を行	○焼却にかかるコストの削減(経費を公表し、削減量を市民に周知
			っている。	する)
			○粗大ごみを近所まで集めにきてもらう	○再利用方法の広報。ごみ処理施設の見学会を行い、市民に再利用
Aπ			〇機密書類の処分について、機密書類は綴り紐やホッチキスを外し	の必要性を知ってもらう。
) 院 決			て回収して焼却処分するのが一般的。一方で、費用は掛かるがシ	○学校でゼロカーボンを進めるための教育
すべ			ュレッダーを搭載した車で収集してくれる業者もある。綴り紐・	○事業所での分別を促進するため、市からゴミ箱を配布する。ま
解決すべき課題			ホッチキスも外さずにシュレッダーくずにして、リサイクル業者	たは、分別用ゴミ箱の設置に要する経費を補助する。
課 題			に渡している (焼却処分されない)。 行政は環境配慮の面から、こ	○生ゴミ処理方法の広報。家庭の生ゴミ処理方法を周知しては。
ACES.			のような業者の利用を市民に推奨してはどうか。	NHK で新聞紙を利用して処理する方法を放送していた。
		〇ムダな物は買わないよう冷蔵後の中をチェックしてから買い	〇ふわわ女性の会では県の「食べきり運動」を推進している。食事	〇県の「食べきり運動」協力店に登録している市内事業所が少な
	②食品ロス削減の 推進	物をする。	会では、始めと終わりに食べる時間を確保して、食べ残しが出な	いので、登録を促す。登録店はお持ち帰りパックを提供してく
		〇食べきれる量だけを作る運動。家庭で食事を作りすぎないこ	いよう努めている。このような取り組みを広げると良い。	れるので、利用者にとっても便利。
	)EÆ	とが大切。	⇒「地酒で乾杯条例」のように「食べきり条例」を作っては。	〇学校で食品ロス削減を進めるための教育
		○分別する前に「買わない」ことを意識する。	○3円、5円のレジ袋は簡単に買えて、すぐに捨てられてしまうの	○会議ではお茶は出さず、案内の際に「マイボトル持参」を通知す
		○マイボトルの所持を普及させる。	で、100円程度の袋を販売して長く使ってもらう。マイバック	る。
	③プラスチックごみ	⇒マイバックを持参する男性も多くなってきている。性別問わ	を意識づける。	
	削減の推進	ずに「若い人」にマイバックを普及させることが必要。	○お店がストローやスプーンを出さない。買い手はもらわない。	
			○生活学校では、海洋プラスチック問題を紙芝居で伝える活動を行	
			っている。	

## その他意見

- ○大野市と勝山市は「ビュークリーンおくえつ」を持っており、廃棄物処理の土壌がしっかりしている。
- ○企業は商売が目的なので、環境に配慮した取り組み(商品を生分解性にしてもらう、コンビニでもマイバック運動をしてもらうなど)を行ってもらうには、行政側から働きかけることが必要。**数年前にケーキや恵方巻の食品ロスに** 対して、政府から小売業者に通知して、解消された事例もある。大野市と企業がより強くタイアップすることが必要。
- ○サッカーチームの「京都サンガ」では、使用済みの食用油を来場者から回収し、バイオディーゼル燃料としてバスを走らせるという取り組みを行っている。県内の2~3の福祉施設で食用油を集めて、バイオディーゼルを作っているところがある。
- ○ごみ減量化に向けた流れは、「①ゴミを出さない⇒②分別する⇒③回収する⇒④リサイクルする」。それぞれの工程でアイデアを出して、大野らしさを出した取り組みができると良い。